

悩みがあるのが人

大阪樟蔭女子大学 学長 北尾 悟

昨年6月6日、田辺聖子さんがお亡くなりになりました。改めてご冥福をお祈りいたします。いつの時代も若い人たちの創作に対する意欲・熱気は変わらないものです。第12回田辺聖子文学館ジュニア文学賞への多数のご応募ありがとうございました。応募作品数および応募校数は前回を上回りました。田辺聖子さんも喜んでいらつしやると思います。

多くの方々は大きな悩みを抱えています。私の昔からの知り合いは「俺には次から次と問題が降りかかってくる。不幸な人生まっしぐらー」とよく嘆いています。友人との関係悪化、家族の問題、勉強や仕事の行き詰まり、健康のトラブルなど皆何かしら悩みを抱えています。ある悩みが解決したかと思ったら、また別の問題が起こるといった連続が常ではないでしょうか。皆、悩みたくないです。でも生きている限り、問題が起こり悩んだりするのは当たり前と考えてみてはいかがでしょうか。生きていくからこそ問題が起こるんだ、悩みがあるのは生きている証なんだ、と思えば人生を面白く思えてくると思います。問題や悩みがあることが人生の醍醐味だと捉えてみてはどうでしょうか？

本を読む、読書することは、自分が経験していない世界や人々に出くわすことにつながります。書物を通して他者の問題や悩みを知ることになります。大小、種類は違えど、どんな人でも悩みを抱えていることが分かります。その悩みを解決することもあれば、解決できずに悶々としていることもあります。それが人間、人生だと肯定的に考えてみましょう。こういう私も小さいことも含めているいろいろ悩んでいます。でも、ある書物からこういう考え方を知り、自分自身に言い聞かせながら生活しています。特に若い皆さんはこれからの長い人生、多くの問題に直面することになるでしょう。でも悩みがあるが人間、人生だということを豊富な読書量から学び取れば、人生を楽しく有意義に送ることができるでしょう。

結びに、創作意欲旺盛な生徒への学習指導にご尽力を賜りました中学および高等学校の先生方、ならびに本文学賞の運営にご協力いただいた多くの関係者の方々に厚く感謝いたします。本文学賞は多くの方々の支えにより今日まで続けることができたことに重ねて御礼申し上げます。